令和 7 年 04 月 25 日　区長記者会見

【司会】
　それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和 7 年 4 月 25 日、北区長定例記者会見を開始いたします。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。私、広報課長の村松です。どうぞよろしくお願いいたします。
　本日は、やまだ区長、政策経営部長の藤野、企画課長の栗生、産業振興課長の小林、生活安全担当課係長の高橋が出席しております。それでは、早速ですが、やまだ区長、よろしくお願いいたします。

【やまだ区長】
　皆様、こんにちは。令和 7 年度の第 1 回目の記者会見、お越しいただきましてありがとうございます。改めて、令和 7 年度に入りました。区長就任から 2 年が経過し、折り返しの 3 年目となります。今年度も職員の皆さんと力を合わせて、区民サービス向上に向けた取り組みを、スピード感をもって行っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
　今年度初の定例記者会見でありますので、少し会見についてもお話しさせていただきたいと思っているのですが、2 年間、毎月、23 区では唯一、毎月定例記者会見をやらせていただきました。3 年目の今年はですね、記者会見の持ち方も少しずつ工夫をさせていただきながら、より区民の方々に区政に興味を持っていただき、関わっていただく、そんなきっかけになったらいいなと思い、取り組んでまいりたいと思っております。
　ちなみに今日は、赤羽のイノベーションサイトを会場にして記者会見を行わせていただいております。この後、報告の中で入れさせていただいておりますが、これからも少しずつですね、記者会見のあり方についても工夫を続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

　それでは、早速内容に入らせていただきたいと思います。まず表紙です。こちらですね。今月の表紙が赤羽馬鹿祭りであります。北区内のお祭りの中でも北区を代表する大きなイベントであります。今年は 4 月の 26 日が前夜祭、そして 27 日がお祭り開催ということで、毎年約 10 万から 15 万人の方々が訪れるこの赤羽馬鹿祭りであります。
　改めて今年で 67 回目を迎えるんですが、これまで続けてこられた方々、そして実行委員会をはじめ関係者の皆様に感謝を申し上げたいなと思っております。そして、多くの方々が北区に訪れて、赤羽馬鹿祭りを通じた北区を感じていただけると嬉しいと思っています。

　それでは 2 枚目に入ります。今日、記者会見の中で取り上げます事業は 4 つです。北区では北区基本計画で 7 つの主要政策を掲げて取り組んでいます。こちらの 7 つです。この 7 つの主要政策のうち、4 つの主要政策の中から一つずつ事業を今日はご報告していきたいと思います。

　まず一つ目の事業はですね、主要政策の「経済と環境の好循環を地域力で創出」からの事業です。赤羽イノベーションサイト。4 月 5 日に北区の産業コミュニティ拠点として、この JR 赤羽東口高架下にグランドオープンいたしました、赤羽イノベーションサイト。今日、この会場です。についてご報告したいと思っております。
　現在、北区では、区内産業の方向性を示す北区産業活性化ビジョンの改定作業を行っています。区

内の産業活性化に、この改定と合わせて、全力で取り組んでいきたいと考えておりますが、その産業活性化の拠点となるのが、この赤羽イノベーションサイトであります。活動拠点を設けることで、多くの方々のコミュニティをつくって交流が生まれていくこと、そこからイノベーションが起こっていくことを目的としています。

主なこのイノベーションサイトの機能、取り組みですね。三つご説明します。こちらの三つです。一つ目は、起業・創業等の支援です。そして二つ目が、起業家や経営者等のコミュニティ形成、交流の拠点です。そして三つ目が、区内観光の魅力を発信していく場としての施設です。これら三つの柱を推進していく場として設置を開設いたしました。

まず 1 階がですね、観光 PR コーナーを設置いたしまして、北区観光ボランティアガイドの会の方々や北区観光協会の皆さんと連携しながら企画運営を実施していきます。そして、一番前面にですね、渋沢くん FM のスタジオもガラス張りであります。私も Kanako-Vision ということで番組を持たせていただいておりますが、スタジオが見えることで、FM を聞いていただく方が増えていくといいなということでブースを設けています。

2階はこちらです。利用登録で、無料で使えるコワーキングスペースがあります。イベントスペースとしても活用いただき、利用団体の方々の交流イベントの開催などもしていきます。このスペースで、起業を目指す方々が、さまざま交流を通じて新しいものを発想し、イノベーションが促されていくこと、そんな取り組みにつなげていきたいなと考えています。

区内で起業・創業を目指す方々とともに、北区を新たなマーケットとして捉えて、新規事業を参入検討している方々が学びや出会いの場としていくこと、また、ここが革新的な技術や発想で新たな価値が生み出されていくことで、北区の産業が大きく発展していくことを期待しています。

この赤羽イノベーションサイトの大きな三つの事業の中の一つに、創業等の支援。次のページです。この取り組みとして一番大きなものが赤羽イノベーション大学です。

起業について、基礎から実践まで、わかりやすく伴走型で支援をしていくことで、北区で起業という夢を叶えてもらい、そして北区の産業を盛り上げていただくことを考えています。

一つ目からですね、ビジネスのまず一つ目です。基礎講座です。この基礎講座では、初めての方々でもビジネスに関する起業に関してのノウハウをここでお伝えをして、なんと無料です。講座無料です。初めての起業講座、ビジネスプランの作成などを支援していきます。

そして第二弾としてビジネスの実践講座。ここから有料になっていくんですけども、各講座一コマ 5,000 円という料金体系になっています。ビジネス講座の方ではですね、専門的な具体的なテーマについて学び、座学とワークショップ、これを両立しながら学んでいただく講座です。

そして最後に実践ゼミです。よりそれぞれの企業の項目に応じた学習をしていく。さまざまなですね、飲食店ですとか、それぞれの起業していく内容について寄り添った形で講座ゼミを開いていきます。こちらも有料で 5,000 円です。

このような形で段階を経て、最後起業まで支援をしていきます。起業の時にはですね、北区として起業支援をさまざま、金銭的なところからアドバイザー的なところまで起業家支援をしていきたいというふうに思っております。このような講座をオープンします。

赤羽イノベーション大学。5 月 10 日の土曜日、14 時から 2 時間ですが、16 時まで、オープンキャンパスとして、どのような講座があるよということをご説明していきたいと思いますので、ぜひご興味のある方は一度来ていただいて、こんなことを学べるんだなというようなことを見ていただけたら嬉しいなと思

っております。北区の中で、会社を興して事業を行っていき、仲間を作って、みんなでこの北区で盛り上がっていくことができたら嬉しいなと思っています。オープンキャンパスの申し込みはこちらの QR コードからです。ぜひ皆さんお越しください。

続きまして、二つ目の事業についてです。二つ目の事業は、主要政策の「子どもの幸せ No.1」から「大学の力で体験型教育を充実！」であります。

北区では公民連携で大学と連携を行っています。区内にある大学をはじめ、6つの大学と連携・協働に関する包括協定を締結いたしまして、各大学の先生や学生の皆さんに関わっていただき、専門的な知識や学生さん目線の新たな発想、また大学スペースを使わせていただくことも含めてお力をいただいています。大学との包括連携協定の取組を北区の基本計画に位置づけ、教育、文化、産業、そして健康、環境、まちづくり、防災、防犯など、さまざま幅広い分野からの地域課題の解決、そしてその解決とともに、豊かな地域社会づくりを推進しています。

例えば、この6大学、一つずつだけちょっとご紹介したいと思いますが、東京家政大学さんとは、不登校児童生徒への支援としまして、大学内に新たな学びの場を開設いただき、学生さんにも関わっていただきながら、子どもたちが学校には行けないけれども、大学のお兄さん、お姉さんとお話しすることで、少しいる場所が新たな場所としてできていく、こんな機会をつくっていただいています。

また、東洋大学さんとは、デジタルを活用した高齢者のデバイド対策、デジタルデバイド対策や、北とぴあにはデジタルサイネージを共同で設置をさせていただき、さまざまな情報発信をさせていただいております。

そして、帝京大学さんとは、看護学科専任教員による健康相談や健康講座を開催していただき、多くの方々の健康、長寿に向けた取り組みにお力をいただいています。

そして、女子栄養大学の皆さんとは、高齢者ふれあい食事会の実施や、面白いところではですね、ハンガリーをモチーフとした創作料理を校内レストランで考案し、開発をするなど、取り組みを一緒にやらせていただいています。

そして、東京成徳学園さんは、子どもたち、子育て支援の一つでありますファミリーサポートセンターの事業の周知、そしてサポート会員の募集を大学内でもさせていただき、学生さんにも子育て支援に関わっていただく、そんな周知をさせていただいております。

そして、今日ご紹介いたしますのが、お茶の水女子大学との連携授業についてであります。子どもたちの理科力、理科の力を向上していく。なかなか理科って興味が持てないと、こうとっつきづらいというか、自分も苦手な方なんですけど、おもしろいなというところから興味を持って、勉強につながっていけばいいなというところで、お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究の講師の方々、またティーチング・アシスタント、アシスタントの方々のご指導のもとで取り組みを開始しています。

中学生の今回「サイエンスラボ」という取り組みについて募集を開始しますので、ご紹介させていただきます。こちらはですね、6 月から 12 月まで毎月一回、土曜日の午後に開催します。夏休みの 8 月は 3 回連続講座ということで、3 日間連続で自由研究、夏休みの宿題で多く出ますが、自由研究に取り組む講座を開催。また、昨年は小中合同の親子講演会、これ 300 人近くお集まりいただいたと聞いていますが、講演会なども行います。

そういった講座「サイエンスラボ」の募集を 5 月 1 日から 22 日まで、区内の中学生、募集をさせていただきます。応募はこちらの申し込みフォーム QR コードからご覧いただきたいと思います。こちらの QR

コードお申し込みフォームは、5 月 1 日からオープンになりますので、今見ていただいてもちょっと開かないかもしれませんが、ぜひ区内の中学生、私立も公立の方でも結構です。お茶の水女子大学とのコラボ「サイエンスラボ」にご応募いただきたいと思います。お待ちしています。

そして、三つ目の事業のご紹介です。三つ目の事業は、主要政策「区民サービス No.1 の行財政改革」から「北区の魅力を世界へ発信！」。区外ではなくてもう世界へ、と大きく出てますが、区外、世界へ発信していきます。北区シティブランディング事業助成についてであります。
北区では、北区に価値を感じる人を増やしてですね、多くの方々に、さまざまな人生の選択肢として、この北区が「選ばれる街」となり、人々の豊かさにつなげていくことを目的として、北区シティブランディング戦略ビジョンを策定しました。今年度から、このビジョンをもとに新たな取り組みをどんどん行ってまいります。まず初めに、北区の目指すシティブランディング戦略ビジョンの概要を動画でご覧いただきたいと思います。では動画をお願いします。

～動画上映～

【やまだ区長】
ぜひ、このブランディングのビジョン。ホームページで内容を公開しておりますので、区民の方々にもご覧いただきたいと思っております。今まで計画、ビジョン等を区役所でつくると、こう分厚い冊子になるんですが、やはり北区のシティブランディングですので、映像で視覚的にも区民の方々にわかりやすくイメージを持ってもらえるようなものにしていきたいということで、映像にしました。こういった一つ一つの取り組みから、北区のブランディングをみんなで、区民の方々、区内事業者、区役所だけではなく、みんなでつくっていきたいというふうに思っております。北区公式インスタグラムの開設やブランディングサポーター制度の創設、また都市イメージ調査なども今年行ってまいります。

そういったさまざまな新たな取り組みの第一弾として、今回ですね、「北区が好き」と感じる北区ファンの増加や、ファンプライドの醸成につながる事業、イベントを行っていくいただく方々に助成を実施します。事業費の助成。補助率は 3 分の 2、上限 100 万円です。100 万円までイベント事業に補助金を出します。募集が 5 月 15 日から 30 日まで。
どんなイベントをしたらいいのかなという方々、お声を多くいただいておりましたので、イベントに関する講座も今回開催をしてまいります。講師が、前野伸幸さんという先生をお迎えいたしまして、「みんなでつくる地域の未来！イベント企画・運営の基礎講座～地域の魅力を最大化！イベントでファンプライドを実現しよう～」というタイトルであります。イベント、どんなことをやったらいいかということも学んでいただきながら、皆さんでこの北区のブランディングに関する発信をしていただく事業、イベントをぜひ考えて、ご応募いただきたいと思っております。
だいたい 5 組程度ですね、選定をさせていただく予定となっております。区内の団体の方々、民間事業者の方々、さまざま各団体の方々、ご応募お待ちしております。ぜひよろしくお願いいたします。

そして、四つ目の事業、主要事業の「安全安心 No.1 と北区強靭化」から、「オール北区で防犯対策を！」として、個人宅向けの防犯機器購入助成事業についてご紹介をしたいと思います。
これまで区では、防犯対策として、区内 3 警察署や、区民と関係機関で組織されます防犯協会皆様と

毎年啓発活動などを行ってまいりました。また、防犯ボランティアのパトロール隊という方々もいらっしゃいます。こういったボランティアの方々の活動も支援をしてまいりました。こういった啓発はたくさんやっているんですけども、なかなかその個人個人のお宅での防犯対策が、もう一歩進んだらいいなというところで、東京都の事業を活用させていただきまして、意識啓発の次の段階として、個人宅で防犯対策を実践してもらうため、特に侵入盗、泥棒ですよね、空き巣とか泥棒、そういった被害の防止のための有効な防犯機器等を導入設置した方々に助成をしてまいります。

ちなみに、北区の侵入犯罪の実績をちょっと調べました。令和4年度が侵入犯 32 件、強盗が 4 件で 36 件。令和 6 年度がですね、侵入犯が 47 件で、強盗が 6 件、53 件、約 1.5 倍になっています。令和5年度は実はもうちょっと多くてですね、すごく上がってしまったので、防犯協会を中心に地域の方々にさまざま啓発活動をやっていただいて、令和 6 年で少し下がったんですが、それでも令和4年に比べると 1.5 倍の数まで上がっています。

こういった区内の状況を鑑みまして、やはり個人個人、お一人おひとりの意識の啓発とともに具体的な対策を講じていただきたいということで、購入費補助を行います。今回、補助対象となる項目が 8 つ。8 個ですね、内容が決まっています。

1つ目が防犯カメラ、そして2つ目がモニター付きドアホン、3つ目が防犯フィルム。割られないように、ガラスが割れないように貼るフィルムですね。あと人感センターライト。人が来ると灯りがつく。それから錠前。鍵がもともとついていて新たに付けるものと、今までもあったけども新しく付け替える、どちらも OK です。そして防犯ガラス。ガラス自体も新しくする、防犯用のガラスに変えるよというものも対象になります。それから面格子。これはガラスの前に格子になったものですね。これをつけていただく。新たに設置するもの、変えるもの、どちらも OK です。最後 8 つ目がドアスコープ用カメラ。扉のところに、こう覗くと人が見える、外に。これが防犯用になっているっていうものが今出ています。

これら 8 つのメニューについて、設置対策をされる費用について補助をしていきます。購入費、設置費の 4 分の 3、最大 3 万円までです。4 万円かかったうち 3 万円ということで補助をしていきます。

この申請はですね、1世帯、区内に住民票のある世帯、1世帯につき1回だけです。なので、例えば 1 番と 3 番一緒にやって 4 万円だった場合っていうのも OK です。1 個だけではなくてですね、この 1 から 8 までセットプランでこの金額内で補助をさせていただくということです。

これら 8 つの対応について、業者さんに設置してもらう、その設置費用も OK です。工事費用も対象になりますが、ご自身でつけるよというときに工具を買った、その工具はちょっと対象外になります。細かい話なんですが対象外になりますので、ぜひお気をつけいただきたいと思います。

申し込みなどにつきましては、夏ごろから、ちょっとまだ日にちが決まっていないんですが、申請受付開始が夏頃となっておりますが、4 月、今年度に入ってから 4 月以降ですね、対応された方々遡って対象となりますので、買われたとき、工事してもらったときの領収書等はしっかり手元に持っておいていただけたらなと思います。最新情報はホームページでその都度更新してまいりますので、ぜひ注意してご覧いただければと思います。町会自治会連合会を通じて地域からも発信をしていきたいと思いますが、ぜひホームページからもチェックしていただきたいと思います。

そして、最後の事業であります。同じく「安全安心 No1.と北区強靭化」、二つ目です。「子どもたちを犯罪から守る」の取り組みです。闇バイト対策、体験型ゲーム「レイの失踪」を区立中学校で実施していきます。公立学校では 23 区初めての取り組みとなります。新聞とかでも取り上げていただいているんですが、今日は特別にゲストもお迎えをしまして、開発者にお越しいただいております。後ほどご紹介と

少し対談をさせていただきたいと思いますが、まずこの取り組みについてご説明をしたいと思います。
本プログラムは、闇バイトの疑似体験をゲームで活用していく。疑似体験をゲームでできる。子どもたち、参加者、生徒がゲームを通じて自ら SNS から犯罪に巻き込まれたような体験につながって学べると、かなりリアルな体験だと聞いています。そして、画期的なプログラムであると思います。このプログラムから、子どもたち、生徒さんたちは 3 つの重要なステップを学ぶことになります。「狙われない」、「騙されない」、「ハマらない」、この 3 つをしっかりと感じながら体験していただく。このプログラムです。具体的にどんなプログラムなのか、紹介を、紹介動画でご覧いただきたいと思います。お願いします。

～動画上映～

【「レイの失踪」紹介動画ナレーション】
闇バイト、それは SNS や求人サイトなどで、高収入、簡単な仕事といった甘い言葉で若者を誘惑し、特殊詐欺や強盗などの凶悪犯罪に加担させる大きな社会問題。逮捕者の 8 割が 10 代、20 代という現実も。そんな中、一方的な注意喚起だけでは若者の心に響かず、また SNS を介して複雑化する闇バイトの手口は、教育現場にも十分な知識がないのが現状です。こうした状況を解決するため、闇バイトをリアルに体験して学べる全く新しいプログラムを開発しました。それが「レイの失踪」です。
ゲームに登場するのは、人気急上昇中の高校生動画配信者「レイちゃんねる」。突然メンバーのレイとの連絡が途絶え、彼女の SNS には、怪しい求人サイトの履歴や不審な DM の痕跡が。失踪したレイの SNS を通じて、闇バイトの危険性を疑似体験する新感覚謎解きゲームです。
「レイの失踪」を通じて、プレイヤーは 3 つの重要なスキルを身につけます。闇バイトを見抜く検証スキル。なぜ人は闇バイトに引き込まれていくのか。その過程を体験しながら、危険な誘いを見分けるスキルを磨きます。情報発信のリテラシー。実際の被害事例を通じて、情報を守ることの大切さを学びます。実践的に学ぶリスク回避。最新の対処法や具体的な相談先を知ることで、トラブルから自分と大切な人を守る方法を学びます。リアルな SNS 環境で謎解きを楽しみながら、自然と必要なスキルやマインドセットが身についていきます。ゲーム終了後のレクチャーを通して、「レイの失踪」で遊んだ内容が闇バイトとどう関連していたのかを学んでいきます。レイが残した SNS の痕跡から闇バイトの実態に迫れ。彼女の運命を変えられるのはあなただけ。「レイの失踪」。

【やまだ区長】
すごいですね。わかりやすい動画です。増え続けている闇バイト。これを防止していくためには、しっかりと基礎自治体である北区としても教育の現場で行っていく必要があると考え、今回初めて実施をしていきます。これまで一方的なアナウンス、「こういったインターネット、気をつけましょうね」って、夏休み前とかですね、学校でもアナウンスされるんですが、それだけではもう足らない。やっぱり、インターネットのネイティブ世代、子どもたちに対しては、このような教材を活用して、よりリアルに体験しながら身につけていく。自分たちで何が必要かっていうことを考えて、生活に変化をもたらしていくことが必要ではないかなと思っています。
公民連携の取り組みとして、今回、北区と株式会社 Classroom Adventure の方々のお力をいただきまして、新しいモデルケースとして実施をしてまいります。
まず、北区では、中学校 3 年生、モデル校 1 校も設けまして、全 3 年生全員に授業の一環として受けていたというのが一つ。

それとは別にですね、希望する中学生、1 年生から 3 年生、誰でも OK ですということで、50 名を 2 回実施をしていきます。今回、その募集をさせていただきたいと思います。ちょっと小さいんですけど、5 月に参加者募集。一般の方々、中学生、参加いただける内容となっています。5 月 11 日、日曜日と 18 日、日曜日の 2 回です。赤羽文化センターで定員が 50 名です。

これはですね、学校からのご案内が届いていると思いますので、ぜひ確認をしていただきながらお申し込みいただきたいと思っております。将来的には、全校 1 学年がみんな受け入れるような形にしていきたいなというふうに思っております。こういったネットのリテラシーをですね、実践的にしっかりと普及していきたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、先ほどちょっと申し上げました、この「レイの失踪」開発者であります株式会社 Classroom Adventure 取締役の今井善太郎さんをお迎えしておりますので、ちょっと準備させていただきたいと思います。

【やまだ区長】

はい。改めまして、「レイの失踪」開発者でいらっしゃいます、 株式会社 Classroom Adventure 取締役の今井善太郎さんをお迎えしました。どうぞよろしくお願いします。

【今井善太郎氏】

こんにちは。Classroom Adventure の今井と申します。本日はよろしくお願いします。

【やまだ区長】

よろしくお願いします。本当に今日はお忙しい中ありがとうございます。私の方からプロフィールをご紹介させていただいていいですか？は

今井善太郎さん、中学生、すごいプロフィールなんですけど、私調べさせていただいてびっくりしたんですけども。改めまして、中学生の時に新たな学びの場を求め、なんと単身でカナダへ留学。現地高校に在学をしながら、小学校で副担任を務められるなど、早くから教育現場に関わられてこられた異例の経歴をお持ちですよね。現場や子どもたちを知り尽くしたエキスパートだと思います。帰国後は、大学進学と同時に、幼児教育事業を手がけられる株式会社 YOMY（ヨミー）を共同創業し、COO として従事されました。その後、中高生、社会人向けの教育に関心を広げ、Classroom Adventure を設立されました。「レイの失踪」などの教育コンテンツ開発を牽引されてきました。そして他にもプログラミング教育の Life is Tech!や、探究型の学習 a.school（エイスクール）にてインターンを経験されています。情報の検証力を競う「ユース・ファクトチェック選手権」では、日本代表としてなんと優勝されたというご経歴を持ってます。現在、慶応大学総合政策学部に在学されている大学生さんです。

本当にすごいですね。いや、本当にいろいろ見させていただく驚きばかりなんですけども、この「レイの失踪」開発についてちょっと伺う前に、これまでの今ご紹介させていただいた経歴、体験など、何か思いなんかあったら一言でも二言でもいいんですけど、お聞かせいただけたら。これちょっと項目にないところですみません。

【今井善太郎氏】

僕、Classroom Adventure っていう会社を今やってるんですけど、もともとすごく教育に興味があって 、先程プロフィールでも紹介いただいたと思うんですけど、カナダの学校に行ったりとか、そこで飛び込みで小学校に行って、ちょっと先生やらせてくれないですかって？

。

【やまだ区長】
そういう制度があったわけじゃなくてなくて、

【今井善太郎氏】
なかったんです。

【やまだ区長】
高校生だけと。中学生、そうです、学生なのに副担任。

【今井善太郎氏】
水曜日休みにしてもらって学校に。水曜日はちょっと小学校で働くんで。

【やまだ区長】
もうすごいですね。どっちの学校も心が広いですね。

【今井善太郎氏】
そうですね、そこは柔軟で。

【やまだ区長】
すごい、発想力がすごいなと思いますが。

【今井善太郎氏】
それで、この Classroom Adventure という会社は、同じ慶応義塾大学 3 人の仲間で、もともとは全然、ただドイツ語の授業で出会った友達だったんですけど、一人はアメリカ人で、僕はカナダで結構育って、もう一人日本人で、3 人で「学校をもっと面白くしたいよね」みたいな話から、「レイの失踪」のプログラムの前に、別の情報リテラシーのプログラムを作ってたんですけど、そういうのを開発していますね。

【やまだ区長】
そうですか。不思議な取り合わせで、学校を楽しくしようっていうところから、危機管理とか安全とか、子供たちを守るところまでね、展開になってて、すごい素敵だなと思います。具体的にですね、今回北区とコラボしていただいて本当にありがとうございます。こういったネット時代の子供たちと同じ目線で作られたこの開発の「レイの失踪」。やっぱり私たち世代じゃ全然わかんないレベル感の話だなってつくづく感じているんですけども、その子供たち目線で作られたこの「レイの失踪」の開発について、社会課題として本当に大きな問題になっております。作っていくきっかけ、さっきね、学校を楽しくっていうところからここに至るのがちょっと間があると思うんですけど、そこをちょっとお聞かせいただけたら嬉しいです。

【今井善太郎氏】
ありがとうございます。この「レイの失踪」のプログラムは、先ほどもちょっとお話ししたと思うんですけど、僕らは元々情報リテラシーの教材とかを作って、いろんな学校に行っていたんですけど、去年 2024 年の後半ぐらいから、いろんな、行くとこ行くとこの学校の先生に、今闇バイトがすごく怖いと。中には実際に生徒さんが逮捕されちゃった先生とか、そういう方から、闇バイト怖いんだけど、やっぱり教え方が分からないっていうふうに言って、何か Classroom Adventure でやってくれないかっていうふうに言ってくださって、それを本当に何十件もお話をもらう中で、やっぱり今本当に闇バイト、問題なんだなっていうのに気づいて、調べてみたら、やっぱり言葉自体はみなさん知ってると思うんですけど、意外とどういう手口であったりとか、どういうふうに誘われるとどういうふうに抜け出せなくなってしまうのかとかってなかなか知られてないところだなと思って、それを伝えるために開発しました。

【やまだ区長】
これ実際の闇バイトの子、どういうふうにハマっていってしまうのか、入り口と、抜け出せなくなる。ここ、ちゃんと内容がわかってないと作れないですよね。すごく。警察の方とかともやりとりされたんですか。

【今井善太郎氏】
そうですね。実際に警察とかにインタビューしたりとか、あとは僕らも、やっぱり本当闇バイトって、皆さんが普段使っている SNS の中にも普通に目にすることができるんですよね。

【やまだ区長】
気が付かないうちに。

【今井善太郎氏】
そうなんですよ。なので、そういうのもちょっと見ながら、こういうの危険だなとかもそうですし、あと、報道の資料とか、いろいろ参考にしながら作っているっていう感じです　。

【やまだ区長】
開発にあたってのちょっと秘話を聞かせていただきましたが、今回のプログラムで、展望何かちょっと伺いたいと思うんですけども、この「レイの失踪」プログラムを通じて、子どもたちにどんなことを学んでもらったり、それからどんな　メッセージとして伝えたいなっていう、その思いを伺いたいと思います。

【今井善太郎氏】
ありがとうございます。まず、闇バイトっていうところでは、やっぱりほとんどの人が今自分ごとに捉えられてないところがすごく大きな問題だとは思っています。話は聞くけど遠いどっかのことなのかなとか、自分は大丈夫だなとか。今回の「レイの失踪」っていうプログラムは、擬似体験っていうのがテーマなんですけど、キャラクターに入り込んで、こういう心理状態だったら闇バイト引っかかっちゃうかもとか、こういう時だったら自分も危ないかも、みたいなふうに思ってもらって、自分ごと化してもらうっていうところが、一つすごく大切。あと、Classroom Adventure としてのメッセージとしては、やっぱりこれがあるから、SNS、じゃ使わないようにしようとか、インターネットはダメだよねっていうふうには思ってほしくなくて、しっかり危険は理解をしながらも、どうやって楽しく使えるか、上手に使えるかっていうところで、明るい未

来を見てほしいなと思います。

【やまだ区長】
素敵な言葉をありがとうございます。本当に教育現場でネットのリテラシー、情報リテラシーってずっとこの数年、結構前から、教育現場の中でも区役所の中でも言葉が出てきてるんですけど、具体的にどんなことをやっていくかっていうところでは、やはり今回のような疑似体験を通じたっていうのはなかなかなかったので、素晴らしいなと思いますし、みんな大人も含めて、闇バイトって知ってるけど、どんなに危険でどんなに気が付いたら入っちゃってるかみたいな、そういった仕組みを子どもたちをはじめ、私たち大人もしっかり感じていける、学んでいけたらいいなと思ってます。
こういった「レイの失踪」だけではなく、これからもいろいろ子どもたちのための仕組み、プログラムを作っていただいて、私たち北区としてもいろいろオーダーとかご相談をこれからもさせていただきたいなと思いますが、よろしいでしょうか。

【今井善太郎氏】
もちろんです。よろしくお願いします。

【やまだ区長】
ありがとうございます。今日、本当に短い時間ではあるんですが、開発者の今井さんに来ていただきまして、こういった機会ってなかなかないと思いますので、ぜひみなさん興味を持って、多くの方々に「レイの失踪」を体験をしていただきたいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。今井さん、今日は本当に短い時間で申し訳ございませんでしたが、わざわざお越しいただきまして本当にありがとうございました。皆様、改めて拍手をお願いします。
はい。こういった形で子どもたちの安全安心を北区として、教育委員会と連携しながら、地域を挙げてみんなで頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ皆様のご理解、ご協力を引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
今回、4 月の記者会見は、このような形でゲストをお迎えした対談も含めて開催させていただきました。これからも区民の方々に区政に興味を持っていただけるような記者会見を心がけていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

【司会】
それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。ご質問の際には、挙手のうえ、職員が持参いたしますマイクを使ってご発言をお願いいたします。また、ご発言の後はですね、マイクをオフにしていただきますようお願いいたします。ご質問ございますでしょうか。

【やまだ区長】
今回今井さん来ていただいて、特別もしご質問があれば内容についてお答えもいただけるということで、ありがとうございます。記者会見の内容とともに、「レイの失踪」の内容についても、もしご質問があれば、どうぞお願いします。どうぞ。

【質問者　NHK】

NHK のスエヒロといいます。ありがとうございました。

【やまだ区長】
いつもありがとうございます。

【質問者　NHK】
赤羽のイノベーション大学の方についてちょっとお尋ねしたいんですけれども、具体的にスケジュールとしては、これいつからこれが始まる予定になっていて、例えばこの講座はそれぞれ何か講師の方はどういったことがされるのかですとか、あと、この対象となるのは主に多分区内で事業を考えている人向けだと思うんですけども、何かそういう条件とかがあればあわせて教えてください。

【やまだ区長】
ビジネス基礎講座から、それぞれ 5 月から 1 つ目の講座がもう開設になります。内容についてはホームページで公表されておりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。5 月から開始になります。
それと、講師につきましては、起業に関する知識の多い中小企業診断士の方々をはじめ、区内の実際に起業、会社を興して事業を行われている産業界の方々に講師をお務めいただいて、今の北区の産業界とのコミュニケーションも含めてですね、交流を含めて実施していくということで、講師陣、豪華講師陣を考えております。はい。あと条件。条件は特に、じゃあ産業振興課長、お願いします。

【産業振興課長】
すいません、条件というのは、具体的には？

【やまだ区長】
区内で区民の方とか、そういうこと。

【質問者　NHK】
例えば主に多分区内での事業を検討しているのが条件かと思うんですけど、そういう、あとは事業として、こう区民向けの何かとか、何かそういう事業内容についての条件とかがあったりするんでしょうか。

【産業振興課長】
そうですね。対象については具体的にこういった事業、事業を展開するとか、そういった縛りは特段は考えておりません。広く、幅広いような形でそこは受け入れをしたいなっていうふうに考えてます。

【やまだ区長】
今までコミュニティビジネスの創業支援が結構多かったんですけども、それに加えて、今例でも飲食店ですとか店舗型ビジネスとか出させていただいてますが、広くどのような業種でも起業を目指す方々を募集していきたいなというふうに思ってます。はい。ありがとうございます。

【司会】
ありがとうございます。その他ご質問いかがでしょうか。

【やまだ区長】
どうぞ。

【質問者 朝日新聞】
朝日新聞イシダイラといいます、よろしくお願いします。3 番のシティブランディングの関係で、先程映像とビジョン・コンセプトブックの話もありました。これ映像とブックっていうのはもうできていたり、見ることは？

【やまだ区長】
そうですね。パブリックコメントも、ちょうどもう終わったところで集計をしております。で、内容についても、今の動画とともに、計画内容についてもブックとしてアップしてます。

【質問者 朝日新聞】
そのブックはホームページ上で見るのですか？配布するものではなくて。

【やまだ区長】
今回ですね、北区として初めて、通常ビジョンとか、そういったものって紙で作ってお配りするんですけど、紙を作らず、デジタルブックのみでやらせていただいております。はい。

【質問者 朝日新聞】
その中で、北区の魅力を世界に発信ていうことで。区長が思っています、北区の魅力ってのはどこにあるんでしょうか？

【やまだ区長】
そうですね、まさに北区って一番課題は、北区って何が一番ということがなかなか発想されないことが一番の課題で、逆に言うとたくさんいいところがあると思うんですね。公園が駅の近くも含めてたくさんあるとか、水辺があるとか、割と都心に交通の便が良くて住みやすいとか、いろんな、私なんかこう、地域コミュニティーが残っているっていうのがすごくやっぱり北区の大きな魅力かなと思っているんですが、交通の便が良くて、それでも緑や水辺が多い。それから人情味のある商店街や地域コミュニティである町会自治会という組織が地元に残っている。こういったことが魅力だと思っているんですが、なかなか区民の方々も自分たちの地域の魅力だよねっていうふうに、当たり前すぎて感じられていないところを改めてこれは北区の魅力だよっていうことを、みんなで意見を出し合いながら、それをまとめて発信していくっていうところなんで、自分なんかはその3つを感じるんですけど、区民の方々それぞれ、区外の方々から見て、北区の魅力ってこんなところ素敵だよねっていうものをどんどん集めて、改めて確立していくということを、今回のビジョンの中ではしていきたいなというふうに思ってます。

【質問者】
ありがとうございました。それとちょっと 1 点、今日、会見とは関係なくて済みません、ちょうど 1 年前の会見で北とぴあの話がありまして、1 年経って、現在、今どんな状況になってるのかっていう現状を教え

てください。

【やまだ区長】
ありがとうございます。早いですね。昨年 4 月に北とぴあの大規模改修の計画を一旦止めさせていただいて、考え方としては、2 年間休館をした上で改修していくことをやめて、令和 7、8 で改修だったものをですね、7、8 で改修の内容を見直すものを作っていきます。
実際、とはいえ、今空調とか、もうすぐ手をつけなきゃいけないものは、手をきちっとつけながら安全を確保してご利用いただけるようになってるんですけども、基本的には止めずに活用していただきながら、手を入れて直していく。大規模改修ではないですが、北とぴあの大規模改修を北口の再開発、王子駅全体の再開発の北口街区、これは三角公園から北とぴあにかけてエリアになるんですけども、このまちづくりの中に北とぴあを位置づけて、単体での大規模改修から、王子駅まちづくりの中の一つとして捉えていくという考え方の計画を、令和 7、8 で、令和 7 の秋にもう出るのかな。改修内容については出していく考え方であります。
コロナで、会館とかみんな止まった時にコミュニティが止まっちゃいましたよね。なので、北とぴあの大規模改修で 2 年間閉館するっていうのが、また経済とかコミュニティと止めちゃうのは本当に困るなということも地域から声があったので、なるべくいながら改修をしていく。大規模から必要最小限のものを実施して、将来的なスパンとして長い視点で見て、北口街区全体のまちづくりの開発の中に産業の拠点をつくっていくっていう考え方で。なので今年の令和 7 の秋口。そうですね。第 4 回定例会なので、11 月ぐらいに北とぴあの改修内容についての方針を発表させていただきます。

【質問者 朝日新聞】
わかりました。ありがとうございます。

【司会】
はい、ありがとうございます。その他ご質問よろしいでしょうか？はい。それでは記者会見以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【やまだ区長】
どうもありがとうございました。（今井氏に）どうもありがとうございました。じゃあ、握手して。頑張ってください。ありがとうございました。